

労働Gメンまこやんの事件簿

監督官の品位を傷つけず、守秘義務にも触れない程度の昔話

By まこやん こと 谷口誠

きたん 「忌憚なさすぎ」の巻

本省研修

中堅監督官として、本省の実施する研修を受けていた時の話。

世はバブル時代、日本の長時間労働が欧米先進国から批判され、労働省（当時）が、「法定労働時間を48時間から40時間に移行させる」「年間労働時間を先進国並の1800時間にさせる」

という行政目標を掲げ、労働時間短縮に向けて各種施策を重点的に展開していた頃、埼玉県の研修所に全国から集められた、私の同期監督官は、数週間に及ぶ泊り込みの研修を受けていた。

同研修は、授業形式だけでなく、「演習」と称する班ごとの集団討論も相当数盛り込まれていた。

ある日、「労働時間短縮」をテーマにこの演習が行われた。

「日本の労働時間短縮を実現するためにはどのような行政展開が必要か」

ということについて、討議するものである。

座長も書記も研修生から選ばれていたが、「話が変な方向に行かないように」ということで、本省から「偉いさん」がお目付け役兼アドバイザーとして同席していた。

演習開始

「では始めてください。」という偉いさんの合図で演習が開始されたのだが・・・

- ・一番元気で、血気盛ん
- ・一番なまいきで、怖いものなし

という時期の、危ない奴ばかり。加えて「偉いさん」が討議の冒頭で、「是非、忌憚のない意見を出して欲しい」ってなことを言ったものだから、討議は白熱というか過熱気味になって、あらぬ方向に・・・



労働省の職員自体の労働時間はどうなんですか？特に本省なんか、若手が毎晩××時まで残業してるんじゃないですか



そうそう。それに〇〇は××だしね。民間企業に「時短」を指導するんなら、労働省自らその範を示すべきでしょう。



いえてる～～～

やばい方向に話が進み始めてるのを見た「偉いさん」は、ついに討議に介入、



君達ね、議論がテーマからずれてるやんか

と言って軌道修正を凶ろうとしたのだが、勢いは止まらなかった・・・

逸脱



いえ、ずれてませんよ。少なくとも本省職員の長時間労働実態はものすごくて・・・



そうそう、国会時期なんか、毎晩遅くまで残業してるって聞いてますよ



してへんしてへん！



ま～～たまた 



めっちゃ やってますやん！



まあ、かつては、そういう時期もあったかもしれないが、今は改善されとる。



いえいえ、ぜ～んぜん改善されてないですよ。
本省には我々の同期もいるし、ネタはあがってるんです。



君なあ、さっきから好き放題やな。失礼やないか！



忌憚のない意見って言ったじゃないですか。



忌憚なさすぎや！
無礼講とは言うてない



でも、ここまで皆が言ってるんですから、やはりキチンとした回答が必要だと思われませんが。

異様な雰囲気の中、場を仕切る座長にまで回答を求められ追い詰められた「偉いさん」はやがて重い口を……



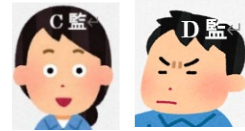
う～～～ん



あいつらはなあ



あいつらは？



勝手に残ってるだけやん

(° 0°) うわ！

全員が↑こんな顔をして呆気にとられている中、これまであまり発言していなかった研修生 E 君がボソッとひとこと……



それって……
あかん会社のおっちゃん（社長）のセリフですやん

そうなのである。会社のサービス残業等を指摘する度に、事業主や労務担当者からそんな言い訳を聞かされ続けているのである。もちろん「偉いさん」自身も、かつて同じような経験を何度も……

E 君の「ツッコミ」は、研修生のみならず、「偉いさん」の「笑いのツボ」をも見事にくすぐり、爆笑のうちに同研修は終了した。

思えば

残業の管理というのは本当に難しい。若い頃、多くの事業場を回り、長時間労働にかかる指導を行ってきた監督官も長じて次第に一線から遠ざかり、職員の管理をする側に回り、初めて「残業を削減し、かつ業務を上手く回していくことの本当の難しさ」を知ることになるのである。

おわり